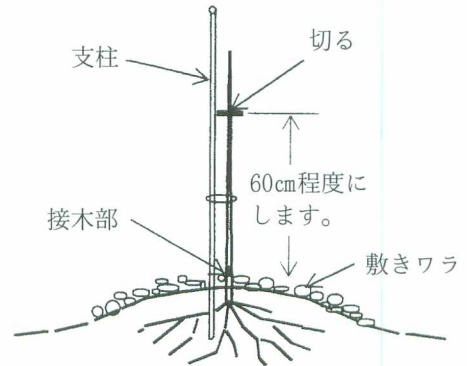


# カキ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培												
富有		⇒ ×	—	★ ⇔ ★	—		● ⇔ ●	—			□	× ⇐
刀根早生 平核無		⇒ ×	—	★ ⇔ ★	—		● ⇔ ●	—	□			× ⇐

## 苗木の植えつけ

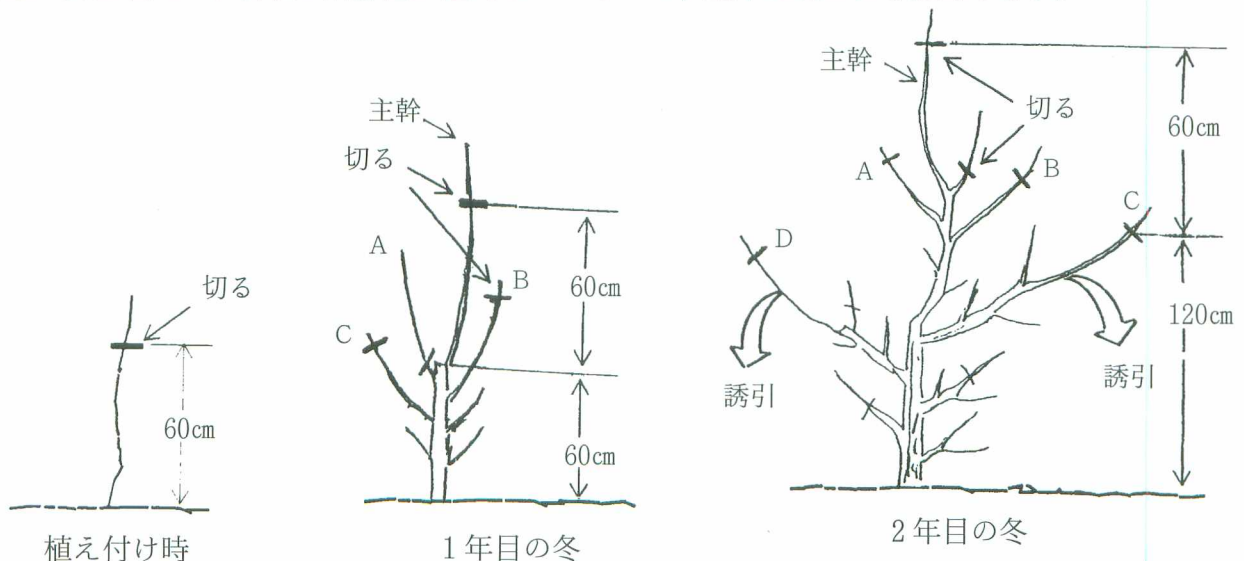
- 11月下旬から3月まで植えつけられますが、落葉すればできるだけ早く植えると、翌春の生育は良好となります。
- 接木部が地上に出るように植えます。
- 植えつけは3m×7mの間隔にし、樹が大きくなった時点で、6m×7mに間伐します。
- 植え付け後は、60cm程度に切り、支柱を立てて苗木が動かないように固定します。
- 乾燥防止のために敷きワラを行います。



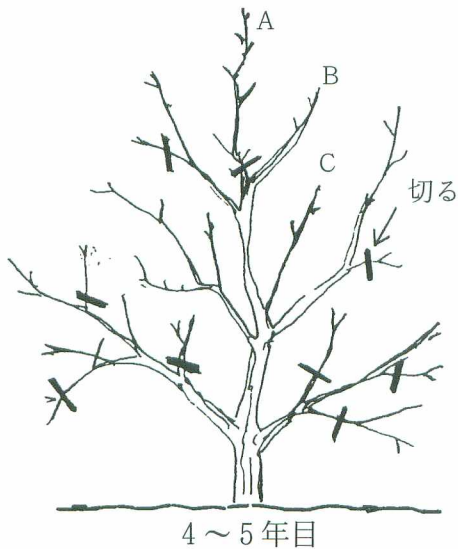
## 仕立て方

剪定は落葉後の12月から2月にします。  
樹冠の内部まで光が入るようにします。

落葉や剪定枝には、各種の病原菌が越冬しているので、土中に埋めたり焼却します。



- 主幹の先端を切り返します。
- Aは主幹と競争するので切ります。
- B、Cは主枝候補として外芽で切り返します。
- AかBを将来の第1主枝にします。
- C、Dは若木から結実させるようにします。
- 主幹からは翌年の第2主枝を選びます。



- 主幹の先端Aを切り下げ、Bを新しい先端にします。
- Cなどの込み合う枝は間引きをしますが、各主枝は先端は切らないで結実させます。

### 土づくり

1～2月に行います。効果がすぐ樹に現れないのでおろそかになりますが、毎年、安定した生産をするための、最も重要な作業です。施す有機物は完熟したものを用います。排水の良い園では、たこつぼを掘って土と改良資材や有機物を混ぜて埋め戻します。

### 摘 蕾

大玉果を生産するためにします。早く摘蕾する程、樹への負担が軽くなり残した蕾への養分供給が多くなるので果実肥大が良くなります。

### 摘 果

生理落下が収量した7月上中旬頃から始め、7月中に完了するようにします。8月にもう一度園を見回り、摘果の見落としの枝やフトコロ枝の小玉果を摘果します。

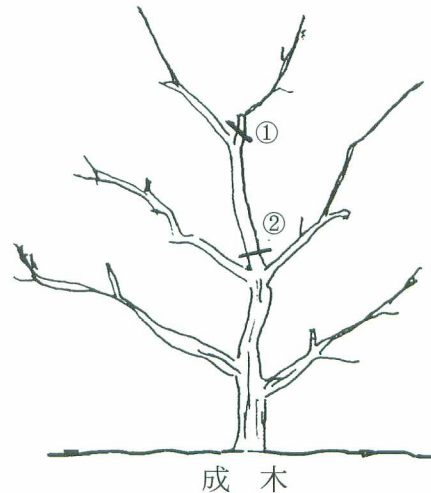
### 収 穫

果梗を短く切って果面を傷つけないように、果粉を落とさないように注意します。朝露や雨の後などにはすぐに収穫しないで、果面やヘタ部が乾くのをまってします。

### コメント

刀根早生や平核無カキは渋ぬきが必要なため、炭酸ガスによる脱渋や9月中旬に固形アルコールを使って樹上脱渋を行います。

樹上脱渋のカキは11月上旬に収穫し、紀ノ川柿として出荷します。



①②の順に切り下げて、主枝を3本程度にして日光がよく当たるようにします。

### 施 肥

元肥：10月に年間施肥量の6割を施します。  
芽出し肥：3月に残り3割を施します。  
追肥：6月に葉の色を見て施します。  
(1割程度)

### 人工授粉

早い所では、5月中旬頃から花が咲き始めます。富有カキなど甘カキは果実に種が入らないと  
①生理落下しやすい。  
②果頂部がくぼんで形が悪い。  
③肥大が悪く、着色も遅い。  
などの弊害がおこり、収量や品質に影響します。

庭先でつくる果樹 赤井 昭雄 農山漁村文化協会